

養成所ニュース

第36期生124名が受講スタート!!

第36期生の皆さん、本養成所へのご入学おめでとうございます。また、現在仕事をもちながら、熱心に学びを続けている皆さんにエールを送ります。

社会福祉養成カリキュラムが新しくなり、科目名に使われていた「相談援助」という言葉が「ソーシャルワーク」という名称になりました。私が本養成所で学んでいた頃は「社会福祉援助技術」という科目名でしたが、援助技術というと技術が中心で中核となる倫理や価値といった内容は含まれないようなイメージで、何か釈然としない気持ちがありました。平成19度のカリキュラムの見直しで「社会福祉援助技術」は「相談援助」になりましたが、この言葉にも違和感がありました。社会福祉士及び介護福祉士法では、相談だけでなく関係機関の連絡や調整なども相談援助だと定めています。しかし、どうしても相談援助＝相談と受け取られてしまうことが多いように感じていました。もちろん利用者一人ひとりへの相談は重要ですが社会福祉全般からみると狭い印象です。この度の養成カリキュラムの見直しで、「ソーシャルワーク」という広範な内容のある言葉に統一されたことを大変うれしく思っています。

さて、当協会は知的障害のある人を支援する事業者の団体ですが、当協会が社会福祉士養成所を運営

することの意義を再確認したいと思います。知的障害のある人たちは、過去あるいは現在においても一人の人としての権利から最も遠く的位置にある人たちであると思います。意思決定支援や地域共生社会の実現という時代に一人の人としての権利や意思が尊重されていない多くの現実があります。

一昨年の国連障害者権利条約の対日審査では、多くの懸念点が指摘されました。その一つが障害者支援施設の長期入所です。知的障害のある人の多くが自分の意思とは関係のない遠く離れた施設やグループホームでの生活を余儀なくされています。そして障害者福祉施設従事者等による深刻な障害者虐待の約7割は知的障害のある人たちが被害者です。受講生の皆さんにはそんな厳しい現状にある知的障害のある人たちの一番の理解者、伴走者となっていただきたいと思います。本養成所で学びを深め、必ず社会福祉士を取得されて多くのクライアント、特に知的障害のある人たちの権利擁護に力を発揮していただくように切望いたします。



社会福祉士養成所 所長

井上 博

日本知的障害者福祉協会 会長

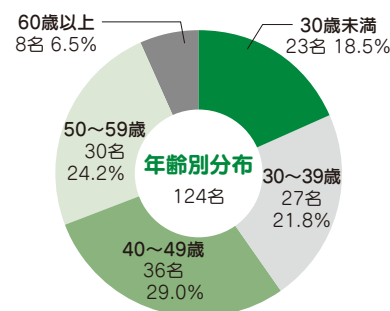
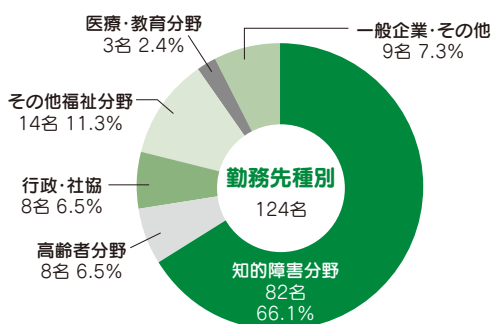
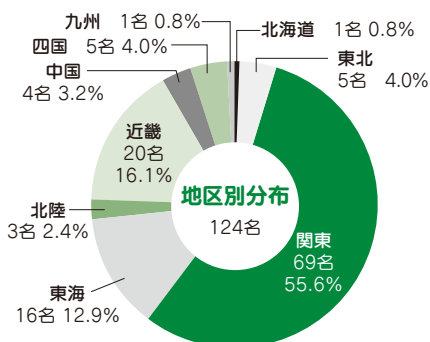
社会福祉士への期待

第36期生の概要（令和6年6月現在）

第36期生社会福祉士養成所の受講生は、124名です。概要は下記の通りです。

運営状況(過去3年間)

年度(期生)	応募者数	入学者数	修了者数
令和4年度(34期生)	173名	163名	155名
令和5年度(35期生)	149名	139名	
令和6年度(36期生)	132名	124名	



第36回社会福祉士国家試験において本養成所より278名（うち5年度修了者101名）が合格しました。前年度（第35回試験）は216名（うち4年度修了者75名）でした。

これまでの国家試験の結果

	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
第34回試験	34,563	10,742	31.1
第35回試験	36,974	16,338	44.2
第36回試験	34,539	20,050	58.1
第1回試験からの合計	1,053,228	311,046	29.5

本養成所修了者の国家試験の結果

	総数	新卒		
	合格者(人)	受験者(人)	合格者(人)	合格率(%)
第34回試験 (32期卒業生)	122	161	61	37.9
第35回試験 (33期卒業生)	216	144	75	52.1
第36回試験 (34期卒業生)	278	141	101	71.6

■ 第37回社会福祉士国家試験の概要（予定）

1. 試験 日：令和7年2月上旬
2. 受験手数料：19,370円（昨年度額）
3. 受付（提出期間）：令和6年9月上旬から10月上旬

※詳細は、社会福祉振興・試験センターのホームページ
(<http://www.sssc.or.jp/>)
をご参照ください。

科目担当教員から

From Teacher



パンデミックから社会調査を考える

新名 正弥 田園調布学園大学准教授「社会福祉調査の基礎」担当



今から4年前の2020年早春、横浜港にクルーズ船が到着したころ、私は調査でアメリカに滞在中でした。帰国すると空港の様子は出国の時と大きく変わっており、その時の緊張感の違いが脳裏に焼き付いています。それから5年が過ぎようとしていますが、その間、立て続けに戦争が勃発し、社会経済状況は激変、世界は2020年以前とは大きく変貌を遂げました。

近代化による個人の解放と資本を通じて再組織化された社会は「液状化」し、個人は多様化する価値と拡大する選択肢の中で、困難な自己同定の過程ににいるといわれています（バウマン、2001=2000）。そのような「液状化する社会」の中でも、集団的な対応を余儀なくされた私達は、公共的な目的のために自主的に自由を放棄し、パンデミックに対応したのです。しかし、その合目的な集合行動は、これまで築いた社会システムの陥穽を露見しました。日本の医療は、効率的な制度とされてきましたが、パンデミックによって医療崩壊を起こしたことで、少ない医療従事者等の献身的な努力で質が保たれていたことが浮き彫りになったことは記憶に新しいところです。

東京大学の國分功一郎教授は、パンデミック時に実施された行政管理と集合行動に見た個人の自由と行為規範の関係を内外の思想を紐解いて論考し、私達は「目的に縛られ、大切なものを見失いつつあるのではないか。人間が目的に縛られない、目的に抗するところこそ人間の自由がある」と人間の自由の本質について述べています（國分、2023）。私達の社会では、今や合目的な価値が過剰に尊重されていることは、「タイパ」や「コスパ」のような言葉の氾濫を見れば明らかでしょう。疫病の蔓延防止のような一般に「公共的な善」と考えられる価値に対して私達は自

由を制限することをやむなしとします。國分教授は、政治哲学者のハンナ・アーレントを引いて「目的という概念には、すでに手段が含まれている」事を指摘しています。人間は、目的を持つと、その目的に向かって、倫理的な方法であろうとなかろうと手段を選ばず遂行してしまうことは戦争を見れば言えな（ま）ないでしょう。

私達は目的を達成するという価値に盲目的に迎合しすぎではないか、という哲学者の指摘を、どのように社会福祉に照射したらよいのでしょうか。私が担当している社会調査では、先に述べた疫学が用いる統計学を用いた量的調査や多様な生活世界を描こうとする質的調査という、パラダイムが異なる手法を学びます。量的調査を行う際は、社会福祉が社会福祉たる価値に根ざした、対象の選択、数値化、比較、集計を行う必要があるでしょう。また、集団に埋もれてしまった個人、多数に対する少数者の眼差しを忘れないように質的調査によって対象者から得られたデータによって新たな視点から生活世界を頭わにする必要があるでしょう。人口知能が実用段階となり、ビッグデータの解析に応用されるようになった今、データの収集、解析が自動化されるようになりました。入学されたみなさんも、それぞれの立場から、個人と社会の関係から社会福祉の価値を反映した社会調査とは何か、学習期間を通じて考えてみてください。

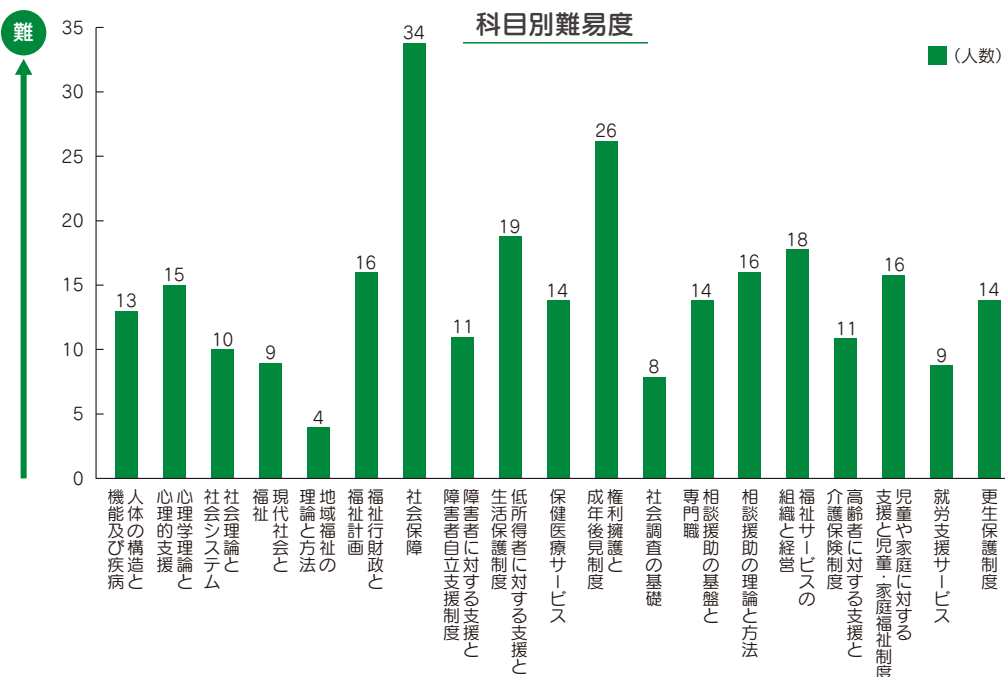
バウマン・ジークムント「リキッド・モダニティ 液状化する社会」, 大月書店, 2001.

國分功一郎「目的への抵抗 シリーズ哲学講話」, 新潮新書 (991), 2023.

令和5年10月に修了した第34期生155名を調査対象とし、120名(①受験をした113名②申込みをしたが当日受験しなかった6名③申込みをしなかった1名)からの回答が得られました。

図は受験者の回答をもとに難易度(難しいと答えた人数)を示しています。

※厚生労働省への報告のため、現在もアンケートは回収をしていますので、未提出の方は早急に提出してください。



先輩からのメッセージ

合格した方からのコメント

<学習開始のタイミング>

- ☆2年間コツコツと行った。計画を戦略的に立てることが大事だった。
- ☆時間管理と続ける努力が大切。仕事や家庭の事情で計画どおりに進められるとは限らないので、確実に時間を確保することを意識した。
- ◇2ヶ月前から始めたが、とてもしんどかった。
- レポート終了後すぐ、2年目の8月から試験勉強を始めた。
- 早めに取り組んで、最後2ヶ月で追い込んで1月に入りスパート。

<学習方法の工夫>

- ☆過去問3年分を3回解き、過去問解説と参考書で確認していった。
- ☆過去問で間違えた問題こそ、じっくり解説を読み参考書でも調べた。
- ☆記憶定着のために、過去問を解いたら必ず次の日にもう一度解くようにし、あやふやな用語はノートに整理し、試験前に何回も確認した。
- ☆知識のインプットには、受験参考書を1単元読み、直近の過去問でその単元を解き、間違えたら参考書にマーカーを引く。知識のアウトプットには、アプリで過去問をやり得点を記録することを繰り返した。
- ☆周囲に惑わされず、参考書を一冊だけに絞り繰り返し取り組んだ。
- ☆受験対策講座と直前対策講座を倍速モードで繰り返し聞いた。
- ☆受験参考書が苦手で、YouTubeの映像と音声、無料受験アプリで五感をフルに使った。スマホがあれば勉強ができ、隙間時間を使いまくった。
- ☆スクーリングの仲間とLINEでやりとりしたことで、モチベーションの維持や情報共有、気持ちの支えにもなった。

☆…注目のメッセージ ◇…反省点やコツ

◇暗記ではなく理解、流れを体にすり込むことだと思った。

- 何をどのように勉強すれば良いか、自分に合った方法に辿り着くのに時間がかかった。1日3~4時間、休日は6時間やった。
- 仕事の日ほぼできず、休みの日に集中して取り組んだ。
- 就業時間後毎日2時間と決めて過去問を繰り返した。1ヶ月空くと忘れがちで、試験1週間前は自分の整理ノートで徹底的に覚えた。

<模擬試験の活用>

- ☆模擬試験は受けた方がいい。会場の雰囲気や時間配分、自分の気持ちの持ち方もわかる。結果はひどかったが、逆に火がついた。
- 11月に受けた模擬試験の結果が合格基準点に遠く及ばず、自分の実力を知ることができた。現実を知り、そこから切り替えることができた。
- 計画もなく模擬試験や過去問を解いていてもさっぱり分からず、ソ教連の受験対策講座で概要をつかんでから取りかかったのが良かった。

<使ったツール>

過去問解説集、受験参考書、模擬試験、学習動画、無料過去問サイト、受験アプリ、整理ノート、受験対策講座、ソーシャルワーク年表、メルマガ、国家試験キーワードチェック、頻出項目チェックテストなど

残念ながら合格できなかった方からのコメント

- 仕事が忙しくなり計画が消化できなくなった。プラン変更が必要だった。
- 勉強の取りかかりが遅すぎた。働きながらの学習は想像以上に難しい。
- 試験日当日に体調不良で受験できなかった。健康管理は大切だと痛感。



立ち止まり振り返る時間に

木伏 正有 社会福祉士 登録第 99609 号



第36期生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんが目指す社会福祉士への学びが始まりました。

皆さんは、それぞれの思いをもって、当養成所の門を叩いてくださいました。日々の仕事や暮らしでは、思いがけないことが起こったり、様々な対応が必要だったり、せわしく過ごされている方もいるのではないのでしょうか。この1年半という時間は、そんな皆さんに、皆さん自身が贈った大事な時間になることでしょうか。時には立ち止まって経験を振り返るのはいかがでしょうか。学んだ知識や技術、価値や倫理でご自身の仕事や暮らし、私たちが生きているこの社会についてじっくり考える時間にしてほしいと思います。

今年4月、「人口戦略会議」は、全国の市区町村のうち4割以上が「消滅する可能性がある」との報告書を発表しました。20～39歳の女性が2050年までに半分に減る自治体を「消滅可能性自治体」というのだそうです。皆さんの自治体はどうでしょう。30年もしないうちに自分の住む地域がなくなるかもしれないというとても衝撃的な内容です。しかし、光明もあります。前回の同様の報告から10年が経過し、239の自治体が「消滅可能性自治体」を脱したということです。どのような子育て支援をしたのか興味を覚え、いくつかの自治体の取り組み事例を見てみました。共通するものとしてわかったのは、子ども家庭分野だけの取り組みでは地域社会は変わるものではないということでした。

皆さんの出願時の小論文でも、少子高齢化や人口減少による社会変動について多く取りあげられていました。そして、地域共生社会の構築、孤立、虐待、老々介護、ヤングケアラー、格差社会、貧困の連鎖、福祉人材不足など、関心のある課題に関連付けていました。今、地域社会では社会の変化により多様化・複雑化した様々な困難が生じています。しかも、それらの困難は、既存の制度やひとつの分野、ひとつの機関、ひとりの専門職だけでは対応が難しい状況にあるのです。

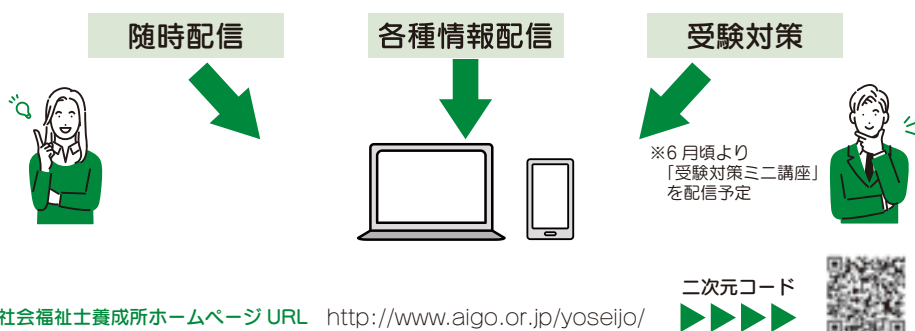
更に皆さんは、それらの困難において社会福祉士の役割を言及していました。相談に止まらない、多職種や他機関、地域の住民との連携や協働が重要だと述べていました。その連携や協働が様々な人が尊重され暮らしやすい地域づくりにつながっていきます。ソーシャルワーク機能を発揮し、それぞれの「地域」で活躍できるような知識や技術、価値や倫理を存分に学び取ってください。

第35期生の皆さんは、修業期間の終盤に入ります。5学期科目の教材学習に取り組むとともに、レポート作成を進めてください。レポートを書き終えたら、いよいよ受験勉強のスタートです。皆さんは、新しいカリキュラムに基づく初めての国家試験に臨むことになります。未だ情報も少なく不安も感じていることと思いますが、養成所もできる限りの情報を届けていきます。ともに歩んでいきましょう。

養成所
ニュースプラス+

「養成所ニュースプラス」は、登録されたメールアドレスに随時、養成所からのお知らせや受験に関する情報、過去の国家試験問題と解説等※をお届けするメールマガジン（無料）です。通勤・通学や普段の学習の合間に、受験勉強の“きっかけ”としてご利用ください。登録に関してはホームページをご覧ください。

公益財団法人日本知的障害者福祉協会 社会福祉士養成所



令和6年度スクーリング日程

	35期生スクーリングⅡ	36期生スクーリングⅠ
東京会場	令和6年7月26日(金)～28日(日)	令和6年8月16日(金)～18日(日)
仙台会場	令和6年7月5日(金)～7日(日)	
名古屋会場	令和6年8月2日(金)～4日(日)	
大阪会場	令和6年7月19日(金)～21日(日)	令和6年7月19日(金)～21日(日)
福岡会場	令和6年8月23日(金)～25日(日)	

国家試験にむけての
おすすめ図書

- ・週刊福祉新聞（福祉新聞社）
- ・福祉小六法（中央法規出版、ミネルヴァ書房）
- ・社会福祉用語辞典（中央法規出版、ミネルヴァ書房）
- ・社会福祉士過去問解説集、社会福祉士国家試験受験ワークブック共通科目編／専門科目編（中央法規出版）
- ・社会福祉士国家試験のためのレビューブック、クエスチョン・バンク社会福祉士国家試験問題解説（メディックメディア）